

地域おこし協力隊通信

第16回

リポーター…
森山健吾 隊員

皆さんこんにちは!!
16回目の協力隊通信です。今回は、なめがたエリアテレビ(以下なめテレ)に出演し、潮来市の情報発信を行っている話題をお届けします。

テレビ出演自体初めてで、不安な気持ちを抱えながら最初に出演したのが、6月末。そこから毎月、月末に出演させていただいています。最初の2回は、潮来市の観光情報をメインに発信してきました。先月3回目の出演の際には、観光情報に加え、協力隊も参加している筑波大学と潮来高校による「高大連携」事業の話題についても取り上げました。

なめテレの出演は、生放送ということで収録とは違いより一層緊張しながら出演しているところ。約8分間という出演時間。緊張して話しているところ。本当にあつという間の時間です。まだ、3回しか出演していませんが、慣れる日は来るのだから…

なめテレでは、潮来市の他にも行方市や鹿嶋市の地域おこし協力隊も出演しています。いつか、協力隊同士一緒に出演し、それぞれの地域の紹介や活動内容の紹介など、話せるような機会があれば嬉しいですね。残りの任期中、何回出演できるかは分かりませんが、自分自身楽しみなが、潮来のことや協力隊の活動のことなどさまざまなことを話せればと考えています。

※なめテレは、行方市内でしか視聴することはできませんが、なめテレ公式ホームページのアーカイブから過去の放送を視聴することができます。

【協力隊出演日】

・ 6月30日(火)
・ 7月30日(木)
・ 8月24日(月)
なめテレのアーカイブはこちらから←



まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

潮来市の誇れる自然

第55回

水田に暮らすカルガモ

潮来市内では稲刈りが真っ盛り、新米が美味しい季節です。道の駅では、地元のお米のおむすびが人気。米粉の生麺を使ったベトナム料理のフォーも、エスニック料理好きの方に喜ばれています。

潮来市内のどこまでも続くような広大な水田の風景。都会からいらいっしやる観光客の方々からよく驚かれます。こういった水田はお米を生産する場ですが、近年では、開発によって消失してしまった天然湿地の代わりに、水田の生きものの生息空間としての機能も担っています。そして、市内の水田でよく見かけるのが「カルガモ」(都市公園池での子育てや引越越しがニュースになりがちなあの水鳥)です。

カルガモの顔(写真1)は淡色の地に特徴的な黒褐色線が入り、くちばしの先端が黄色で、なかなか愛嬌がある



畦で休憩中のカルガモ(写真1)



水田のカルガモの親子(写真2)



稲穂を食べるカルガモ(写真3)

ります。茨城県は全国有数の淡水カモ類の越冬地。潮来市内では冬に10種以上のカモ類が見られますが、一年中滞在するのは本種だけ。市内ではカルガモが広い水田でのびのびと暮らしています。田植えが終わった頃、親カモが子カモを連れていきます(写真2)。

もつとイネが育つと、その間を泳ぎながら、雑草や水生動物を採食しています。飼育品種アイガモに除草してもらう農法があるように、この頃のカルガモは農家さんの味方と思われれます。一方で、稲穂が実る頃、畦から届く範囲の稲穂を食べてしまうことも…(写真3)。野鳥と人の共存の難しさについて、少し考えさせられる瞬間です。

茨城大学地球・地域環境共創機構水圏環境フィールドステーション

加納 光樹